

(別紙様式3)

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 山梨県甲府市丸の内1-6-1  
管理機関名 山梨県教育委員会  
代表者名 教育長 三井 孝夫

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日(契約日)～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山梨県立甲府第一高等学校  
学校長名 小林 俊一郎  
類型 グローカル型

3 研究開発名 「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成  
DOOR一扉を開いて一

4 研究開発概要

山梨県のような課題をSDGsと関連づけ、産学官連携のコンソーシアムを通じ多様な人と協働的に研究して、それらの成果を県内外や国外に発信する。また、国際未来探究フォーラムの開催などにより国際的な対話力を養い、ローカルな視点とグローバルの視点をもった課題解決能力を有した人材を育成し、山梨県における学びのモデルを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
奥田 徹	山梨大学生命環境学域長	学識経験者
熊谷 隆一	山梨県立大学国際政策学部長	学識経験者

安達 徹	山梨県総合教育センター所長	学校教育に専門的知識を有する者
有泉 清貴	山梨県知事政策局政策企画グループ政策参事	関係行政機関の職員
水口 純一	山梨県知事政策局政策企画グループ政策補佐	関係行政機関の職員
戸田 達昭	シナプテック株式会社代表取締役 CEO	カリキュラム開発等専門家

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山梨県立甲府第一高等学校	校長 小林俊一郎
山梨県立笛吹高等学校	校長 井上 孝悦
山梨県立笛吹高等学校	企画研修主任 古屋 寛往
山梨県教育庁高校教育課	指導主事 大久保まさみ
山梨大学生命環境学部地域社会システム学科	教授 渡邊 幹彦
山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科	教授 吉田 均
山梨学院大学国際リベラルアーツ学部	教授 ウイリアム・リード
(株)少國民社	代表取締役社長 依田 訓彦
甲府ロータリークラブ	会長 依田 訓彦
山梨県立甲府第一高等学校同窓会	監事 金子 寛

## 8 カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	戸田 達昭	シナプテック株式会社代表取締役 CEO	非常勤
海外交流アドバイザー	William Rogers	山梨県教育庁高校教育課 PA	ボランティア
地域協働学習実施支援員	金子 寛	甲府第一高等学校同窓会事務局長	非常勤

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

#### ① 運営指導委員会

活動日程	活動内容
令和3年4月1日	運営指導委員会設置要綱を定め施行する。
令和3年5月26日	第1回運営指導委員会（本年度事業内容はじめ、評価や成果発表会の事柄についての協議。指導・支援体制についての確認）
令和3年10月7日	（Zoom）第2回運営指導委員会（コンソーシアム推進協議会と合同開催）事業中間報告会として設定。特記事項として、リスクマネジメントと、クラウドファンディングの活用について協議
令和4年3月19日	（Zoom）第3回運営指導委員会（コンソーシアム推進協議会と合同開催）中間報告会（山梨ブランドサミット）を受け、成果を検証

#### ② コンソーシアム推進協議会

実施日程	業務項目
令和3年4月	コンソーシアムを組織
令和3年7月上旬	笛吹高校と協働で実施する農業実習について、コロナ等の実情を鑑み代替事業「農業シンポジウム」を共同計画。講師陣を決定したが、最終的

	には中止とした。
令和3年7月上旬	コンソーシアムである山梨大学教育学部附属中学校と生徒のプレゼン交流を計画。9月の本校開催国際未来探究フォーラム（一探未来フォーラム）と年度末の本校生徒発表会（山梨ブランドサミット）で中学生がプレゼン等参加することを決定したが、最終的にはいずれもコロナの影響で中学生の参加は中止した。
令和3年10月7日	（Zoom）第1回コンソーシアム推進協議会。相互にお互いの必要とする情報等を補完し、課題解決に向けた取り組みをしていくことを確認
令和4年3月19日	（Zoom）第2回コンソーシアム推進協議会（運営指導委員会と合同開催）中間報告会（山梨ブランドサミット）を受け、成果を検証

## （2）実績の説明

### ①管理機関による事業の管理方法や地域において構成するコンソーシアムの構成

〈コンソーシアムの構成団体／学・官・産・民で構成〉

- ・山梨県教育委員会高校教育課、義務教育課 ・山梨県知事政策局政策企画グループ
  - ・山梨県観光文化部 ・山梨県農政部 ・山梨県産業労働部 ・甲府市教育委員会
  - ・笛吹市教育委員会 ・甲府第一高等学校（＊） ・笛吹高等学校（＊）
  - ・山梨大学生命環境学部地域社会システム学科（＊）
  - ・山梨学院大学国際リベラルアーツ学部（＊）
  - ・山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科（＊）
  - ・山梨大学教育学部附属小中学校 ・株式会社少國民社、甲府ロータリークラブ（＊）
  - ・甲府第一高等学校同窓会（＊）、保護者会
  - ・シナプテック株式会社、Mt. Fuji イノベーションエンジン
- （＊）はコンソーシアム推進協議会の委員を兼ねている。

### ②カリキュラム開発等専門家の配置と業務

〈カリキュラム開発等専門家〉シナプテック株式会社代表取締役 CEO 戸田達昭氏

地域や学校のニーズや現状・課題の分析を通じたカリキュラム開発及び人材の発掘・教育資源の収集・整理等のプロジェクトマネジメントに係る業務を担う。

活動日程	活動内容
令和3年5月28日	「グローバルリーダー育成セミナー」を開講
令和3年9月上旬	コンソーシアムでもある Mt. Fuji イノベーションエンジンを母体とする Y-NEXT（高校生向け起業チャレンジ事業）を本校と連携して推進していく方針を決定
令和4年1月25日～27日	コロナ禍での学習停滞を受け、企業人メンターを招いて、探究活動内容のブラッシュアップを図る。

### ③海外交流アドバイザーの配置と業務

〈海外交流アドバイザー〉山梨県教育庁高校教育課 William Rogers 氏

外国人との深いつながりを通じて、国際競争力スキルアップ講座、国際未来探究フォーラム、海外研修旅行において、グローバルな視点で計画段階からのアドバイザーとしての役割や、本事業について外国人に広く活動を広めてもらう広報の役割を担う。

活動日程	活動内容
令和3年9月24日	「イングリッシュプレゼンテーションセミナー」《理論編》を実施
令和3年10月16日	「イングリッシュプレゼンテーションセミナー」《実践編》を実施。実践編では2年探究班計15班に対し県内ALTを8名動員。指導の充実を図る。
令和4年3月19日	中間成果発表会（山梨ブランドサミット）にて8名のALTを派遣し、担当班の講評を行う。

#### ④地域協働学習実施支援員の配置と業務

〈地域協働学習実施支援員〉金子寛氏（甲府第一高校同窓会監事）

各教科や科目・総合的な探究の時間等の実施時における外部機関（OBや行政、産業界など）と学校と生徒をつなぐ業務を担う。

日程	内容
令和3年7月	年度計画にある国際未来探究フォーラム（一探未来フォーラム）の在り方についての協議、及びパネリスト陣を紹介いただく

#### ⑤管理機関（コンソーシアム含む）による主体的な取組

- ・運営指導委員会、コンソーシアム推進協議会の運営・連絡調整
- ・行政との連携に関わる連絡・調整
- ・コロナ禍における事業変更等における指導・助言
- ・予算執行に関わる指導・助言

\*コンソーシアムによる取り組みについては9（1）参照

#### ⑥国費に上乗せした独自の支援や取り組みの実施

特記事項なし

#### ⑦継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮

特記事項なし

#### ⑧高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和2年3月24日、本校は、山梨大学生命環境学部と「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の実施に際し、高校教育と大学教育の連携を促進、多様化する高校と大学の教育を円滑に接続することにより、高校の教育の改善充実を図ること及び生徒の将来の進路選択に資するために覚書を交わす。（有効期限は令和4年3月31日であるが、延長の方向を決定）なお、内容は以下のとおりである。

- 1 カリキュラム開発への協力
- 2 学習支援
- 3 運営指導
- 4 カリキュラムの評価
- 5 その他 本事業推進に関する事項

#### ⑨事業終了後の自走を見据えた取組について

・本校では特に1年次の段階での探究の基礎基本の習得を目指してワークシートの開発に力を入れている。

・コンソーシアムを構築し、行政（県農政部や知事政策局等）との関わりを持つ中で、社会課題を共有し、双方向のメリットを模索しながら友好的な関係性が保たれている。また、地域活性化や国際社会の様々な課題（SDGs）を見据え、協働して取り組むことが可能である。

・地域協働学習支援員の役割は、事業終了後も地域との協働学習の窓口として期待できるため、本校同窓会事務局長の役職にあたる方をお願いしたい。

・同じく、保護者会（PTA）から講師をお願いする機会も多く、教育活動の資源として双方向

にメリットを求め関係性の構築に努めている。

・様々な教育助成事業があり、不安定な社会構造を見据える教育界のニーズに照らし合わせて助成を得ることも可能と考える。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程 \*主だった実績のみ記載。

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会		○					○					○
コンソーシアム 推進協議会							○					○
連携大学講座				1回			1回	1回				
行政との連携講座		1回				2回						
イングリッシュブ レゼンテーション セミナーの実施						1回	1回					
国際競争力スキ ルアップ講座			2回	2回	1回	2回	2回	1回				
その他の講座、 セミナー等開催				1回			1回			3回		
国際未来探究フ ォーラムの開催						2回						
その他フォーラ ムの実施					中止							
実地調査探究活動	コロナ禍において県外は実現せず。県内では時期やエリアを選択しながら通年実施											
発表会の実施			2回			1回				1回		1回
研修旅行									○			
企業訪問の実施			1回		1回					1回		
Y-NEXT プログラ ム							2回				1回	1回

### (2) 実績の説明

#### ①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

各班の取り組み一覧 (①は1班を示す)

1年

- ①ネガティブ連鎖を断ち切ろう ②はんこ文化の継承 ③最高の学校スケジュール ④棚田資源と地元食材を利用した「お結び」による結の継承及び山梨の食文化の活性化 ⑤道の駅を道の益に道の駅を活かした町づくりで山梨を活性化 ⑥小水力発電 ⑦首都山梨 ⑧家庭の生ごみに対する意識を変えよう ⑨鬼ごっこ U100 ⑩知る・行く・繋げる昇仙峡 ⑪あなたに合った読書のカタチをお届けします。

⑫教えて学ぶ

2年

- ①Enjoy Speaking English ②Spreading Generic Medicine～Raise the usage on children～ ③The labor shortage of farmers ④Small Hydropower Generation ⑤Agriculture×IoT ⑥“The MITAKE-OLD-ROAD” remains North of Yamanashi. ⑦Support for Single Parent Families Using Children’s Cafeteria ⑧Siesta PROJECT Naps Change Japan!? ⑨Depopulation × Local event ⑩GAME×HEALTH ⑪POWER OF MUSIC ～Relationship between

music and appetite～ ⑫Life with my bottle ⑬To decrease Disaster-related deaths by improvement of shelters ⑭Let' s study on my own! ～ children' s habituation of home study～ ⑮Using sound to control birds and animals～Using sound to stop deer damage to crops. ～

□ 3年

①Spreading "Online Classes" ②Beat COVID-19 ③Gathering People ④Disaster Prevention, of the Inexperienced, By the Inexperienced, for all the people ⑤Kindness For LGBT ⑥Children×Elderly×Vacant house ⑦Why does plastic waste increase? ⑧Possibility of power saving ⑨Digital Detox in Yamanashi ⑩Can You SPEAK English? ⑪Small hydro power generation ⑫TANADA! ⑬Know Visit Pass Shosenkyo ⑭Interest of Nature ⑮To improve Takeshima island problem

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

- 1) 「総合的な学習の時間」を「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に代替（1・2・3年次）
- 2) 「社会と情報」（2単位）のうち1単位を「グローバル探究Ⅰ」に代替（1年次）
- 3) 学校設定科目として「Advanced Practical English」（4単位）（2年次）
- 4) 学校設定科目として「グローバル公共」（1単位）（2年次）

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・教科英語の実践とし、身近な社会問題をトピックに上げた教材を作成し、ALTと協働しながらの英語でのポスター作成を取り入れ、そのソフト（パブリッシャー）が探究ポスター作成のベースとなっている。
- ・教科国語の実践とし、プレゼンの仕方、効果的な聞き方、構成を意識して書く、といった力の育成に努める。また、英語科ALTとも共同しながら推進した。
- ・教科理科（科学と人間生活）において、実験、実習を通じてデータの作成、プレゼンの方法等の育成に努めた。
- ・教科芸術（美術）とし、視覚伝達デザインの授業においてポスターを作成。その原理や効果的な表現技術を習得させた。
- ・その他、すべての教科において横断的思考が働くと考えられる。逆に、探究活動が教科学習にも横断的に反映することが認められる。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・運営指導委員会及びコンソーシアム協議会における検証、評価活動
- ・カリキュラム開発等専門家・戸田達昭氏による専門的なアドバイス

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

- ・1～3年の全42班に対し探究顧問を配置。教科の特性を生かした専門的なアドバイス及び渉外業務を担当する。また、2年生15班に対し英語顧問並びにALT顧問を配置。英語プレゼンテーションの指導を担当する。
- ・校内探究科運営指導委員会を設置し年間3回開催。校内探究科で取り組む指定事業を多面的に検証し、有意義かつ効率的な運営を目指す。

⑥カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザーおよび地域協働学習実施支援員の学校内に置く位置づけについて

3 頁 (2) 実績の説明参照

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・指定事業担当教頭を配置する。また、統括主任として探究科主任を配属し、探究推進主任をリーダーに、7名のスタッフ教員で実際の校内運営を行っている。なお、毎週の定期的な打ち合わせと管理職はじめ関係部署（コンソーシアム含む）への報告、連絡、相談体制を整えている。
- ・学校評価委員会による探究活動の評価、改善の試み

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・中学校との交流プレゼン並びに小中学校への出前授業の実践（双方向学習に向けた良好な関係性の構築）
- ・NPO 法人八ヶ岳 SDG s スクールと連携し、月例ミーティングへの参加（プレゼンテーターとしての参加含む）\*昨年度より継続実施

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

9 (1) 参照

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について 【グローバル型】

- ・「イングリッシュプレゼンテーションセミナー（理論／実践）」は有意義であり、特に実践編では各探究グループにつき、1名の顧問ALTが指導に当たり成果が得られた。
- ・従来であれば本校研修旅行（フィリピン・セブ島）にて学校や日系企業に赴き、探究成果を現地で発表し、ディスカッションを通じて実践的なコミュニケーション能力を育むのであるが、本年度はコロナ禍で代替的に2泊3日の「イングリッシュキャンプ」を実施した。（3月19日～21日）。「山梨から世界へ～21世紀にふさわしい新たなランドマークをチームで構想し、英語で発信せよ！」というミッションを設定。17名の希望者が受講する。
- ・国際コンテストや他各種コンクールへの応募は2年次の必須項目である。ほとんどのコンクールがオンライン化された中、積極的に応募を試みた。（成果は下記参照）
- ・本校は、「本当の情報は現場の空気の中に漂っている」をキャッチコピーに1年次より実地調査を必修化している。コロナの影響で滞った時期が長かったが、県内を中心にグローバルな現場の生の情報に触れ、探究を深めた。
- ・コンソーシアムとして連携している県立笛吹高校では県産シャインマスカット（葡萄の品種）の台湾への輸出演習に取り組んでいる。過年度に本校生徒代表が基礎中国語を習得したうえで同行し、成果を共有した経緯を持つ。本年度は実施できなかったため、来年度に期待している。そこで「国際競争力スキルアップ講座」として、1、2年生希望者に対し、中国語特別講座を開講した。台湾研修を視野に入れつつ、国際社会の中で中国語に親しむ意義は大きいと考える。

⑪成果の普及方法・実績について

- ・出前授業とし、小学校へ出向くことを計画（来年度実施予定）。
- ・イベントやコンクールへの参加（論文含む）を促し情報と探究成果を発信する
- ・3年次実施の「ファイナルプロポーザル（提案活動）」において探究成果を地域へ還元

する。

- ・主体的校内組織「とびらプロジェクト本部」による国際探究未来フォーラムの実践、及び Social media 班による本校 HP を媒体とした情報発信を行う。

#### 〈本年度実績〉

- ・NPO 法人八ヶ岳 SDG s スクール主催の月例ミーティングにおいて、「シエスタ」について探究するグループがプレゼンターとして参加し、話題を提供した。その他年間を通し、「減災」、「マイクロプラスチック」などの探究実践をプレゼンし、有意義なディスカッションを行った。
- ・ひろしま国際フォーラムに3年生1名が参加し、世界14か国59名の高校生と「核兵器のない平和な社会」の実現に向けて討議、交流し、「広島宣言」を発表した。
- ・慶応義塾大学主催「医学・医療の学際的修学『半学半教』」に応募した（2次選考まで）
- ・京都大学主催 SDG s リーダープログラムに3名が参加し、全国中高生とのワークショップを経て「Z世代と語る Sustainable で Convenient な未来のデザインを構想した。
- ・Y-NEXT イベントにおいて3つの班が本選に出場した。
- ・エシカル甲子園 2021 予選大会にて、甲信越北陸ブロックの優秀校に選出され、徳島県で開催される本選出場権を得た。
- ・「ニッポン子ども・子育て応援団・地域まるごとケア。プロジェクト・地域人材交流研修会 in やまなしのイベントで、子ども食堂をテーマに活動している班が講演講師を務めた。
- ・第9回高校生ビジネスグランプリにおいて、「農業におけるマッチングアプリの開発」を探究している班が特別出場を果たす。
- ・Glocal High School Meetings2022 において、金賞、銀賞を受賞
- ・第23回高校生小論文コンクールにて、「ジェネリック医薬品の普及」が優良賞を受賞
- ・SDG s 探究 AWARDS2021 にて、「音を用いたシカ撃退装置～楽で簡単な鳥獣対策を～」のテーマで探究している班が審査員特別賞を受賞

#### 11 目標の進捗状況、成果、評価

##### (1) 目標設定シートの考察 〈添付資料〉目標設定シート参照

##### 1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

###### a 英検2級またはCEFRのB1以上の生徒数

1年から3年までの平均値を算出したが、年次が増すにつれ資格取得に向けた取組が顕著である。

###### b 将来山梨で働きたいと考える生徒の割合

探究科、普通科問わず3分の1の生徒が地元就職志向を示している。表では強い意志を持った生徒のみ反映させている。

###### c トビタテ留学 JAPAN、YFU、ロータリー等、留学する生徒や受け入れる生徒の合計人数

コロナ禍の影響で、国際交流系の事業はしばらく困難であると予想される。

##### 2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

###### a 研究・課題発表大会等での上位入賞者数

本校では、特に2年生においてコンテスト等への応募を必修にしており、目標設定値を



上回る成果が得られた。来年度以降もコンテストを活用し探究活動の深化に努めたい。

b 推進校主催の発表会等の外部参加者数

発表会は例年通りの規模で開催するものの、コロナ禍にあって参加制約を設けなければならぬ事情の中で、今年度は低迷した。オンライン参加の普及も図り、改善していきたい。

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

a 学校設定科目（グローバル探究）で外部人材が参画した延べ人数

大学講座や行政によるセミナーをはじめ、コンソーシアムの協力を得ながら多くの外部講師の指導をいただくことができた。各回でディスカッションを充実させ、目標とする力の育成を図った。

(2) 本校独自のアンケートについて

年度のはじめと終わりに同様の質問（25問）について1年から3年までの探究科の生徒にアンケートを実施した。今年度も、新型コロナウイルスの影響で探究科の活動は制約を終始受けることとなったが、アンケート結果は良好であった。

なお、報告書紙面制限の関係により、アンケート結果、考察等については後日提出する成果物「報告書冊子」の中で報告させていただく。

12 次年度以降の課題及び改善点

昨年に増してコロナの影響を受け、現場では密の回避や様々な行動制約、分散登校の長期化による学習活動の停滞など、労苦の多い1年であったと振り返る。その中で、オンラインの活用はますます日常化し主要なツールとなってきた。完全に浸透するまでにはもう少し時間を要すると思われるが、喫緊の課題といってもよい。オンラインのメリットを活用すれば、今までにない幅広い交流活動が期待できるため、肯定的にとらえつつ普及させていきたいと考える。

本校の特徴の一つは、「実地調査」に重きを置いている点であり、さらに2年生にはコンテストの参加を必須としている。つまり、積極的に外に出すことで現場の課題や問いと向き合わせ、同世代の高校生との有意義な交流機会を得ることで各人のモチベーションの高揚を図っている。この点は、探究活動の深まりとともに探究心の高まりに大きな影響があり、次年度以降も積極的に働きかけていきたい。一例を挙げると、昨年来交流を続けているNPO法人八ヶ岳SDGsスクール主催の月例ミーティングでは、様々な探究事例を社会人の前でプレゼンテーションできたり、SDGsの観点で話題を共有できたり、発見があったりと刺激的な会となっており、常連の生徒も増えてきた。

探究活動とは、普段の学校生活や教科学習では学べない、総合的で横断的な思考力が試される。そして探究活動に力を入れるほどに、自身がいかに無知であるかということに突き当たる。このことが普段の学習活動にも相乗効果を生み出し、本校の進路結果にも大きな影響が出てきたことも加えておきたい。生徒は一律に探究活動に前向きで、いい意味で大人を困らせるような発想や行動に出ることもある。本年度は協議会でリスクマネジメントやクラウドファンディングについて意見を交わした経緯もあり、学校側の探究指導の在り方や姿勢が問われた場面があった。今後、探究が進むにつれ多くの新しい課題に直面することが予想されるが、教師側の

新しいスタンスが問われてくると思われる。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	055-223-1766
氏 名	大久保まさみ	F A X	055-223-1768
職 名	副主幹・指導主事	e-mail	ookubo-hcjj@pref.yamanashi.lg.jp